

熟知対象物に由来する色名と記憶色との関係

Relation between Color Names derived from Familiar Objects and Memory Color

名取 和幸
近江源太郎

Kazuyuki Natori
Gentarow Ohmi

日本色彩研究所
女子美術大学

Japan Color Research Institute
Joshi University of Art and Design

キーワード：記憶色，色名，熟知対象，選択法，色票

Key words : memory color, color names, familiar objects, method of choice, color chips

1. はじめに

慣用色名の中には、みかん色、桜色などのように熟知対象物の色に由来するものが少なくない。日常生活の中で人々が見なれた物の色によって、色属性を表示、伝達しようとするわけである。けれども、その場合の色名が指示する色属性は、いわゆる測色によって定められたわけではなく、経験の中から収斂したものであろう。したがって、色名として概念化された色と、対象物の色属性との間には乖離があるとみてよい。この乖離をもたらす要因の一つとして、記憶色があげられよう。熟知対象物の色の記憶については、対象の色と乖離していること、そして多くの場合、高彩度高明度化していることが指摘されている。

そこで本研究では、熟知対象物の実際の色、その記憶色、およびそれに由来する慣用色名が示す色の三者がどのような関係にあるか、現象的な特徴を比較することを目的に実験を行った。なお、色名が指示する色の代表値としては、人々の回答の代表値をとることも考えられるが、ここでは専門的な経験から収斂されたとみられる『JIS Z 8102 (1985) 物体色の色名』の代表値を用いた。また、実測値にも個体差、部位差があるが、ここでは日本色彩研究所による測色値を用いた。これらの点から、本研究は三者の関係に関する予備的な検討として位置づけられるものである。

2. 方法

①対象物：日常みなれているもので JIS の慣用

色名に収録されているもの 30 点。うち 17 点は実測値も揃っている。②手続き：『JIS 標準色票』全 40 葉を机上に色相順に並べておき、対象物の名称を読み上げる。そこで色票を 4 枚ずつ同時に観察できるグレー (N7) のマスクを使用させ、被験者にその対象物の色に最もあてはまる 1 色を選択させる。実験は個人法により、昼間に室内で行い、照明には自然光と D₆₅ 蛍光灯を併用した。③被験者：10 代後半～20 代の女性計 11 名。

3. 結果と考察

3-1. 色名と記憶色との関係

記憶色の回答データから三属性ごとに標準偏差を求め、色名と記憶色の位置が $\pm 1\sigma$ 以内であれば両者は近いとみなして分析を進めた。その結果、三属性とも $\pm 1\sigma$ に含まれたのは、桃、オレンジ、草、空、海、茄子であり、三属性とも $\pm 1\sigma$ を越えたものは柿、にんじん、コルク、桔梗だった。後者は色名と記憶色とが乖離した例といえる。

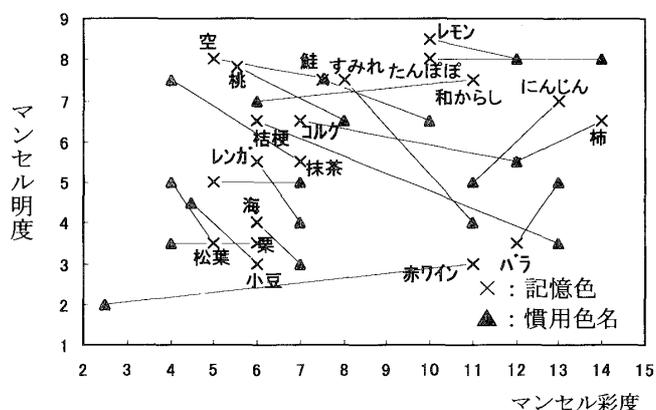


図 1 明度と彩度のズレ (記憶色と色名)

注) 明度・彩度のズレが、共に 1 以下の対象物はプロットしていない(イチゴ、トマト、桜、オレンジ、みかん、肌、象牙、草、海、茄子が該当)

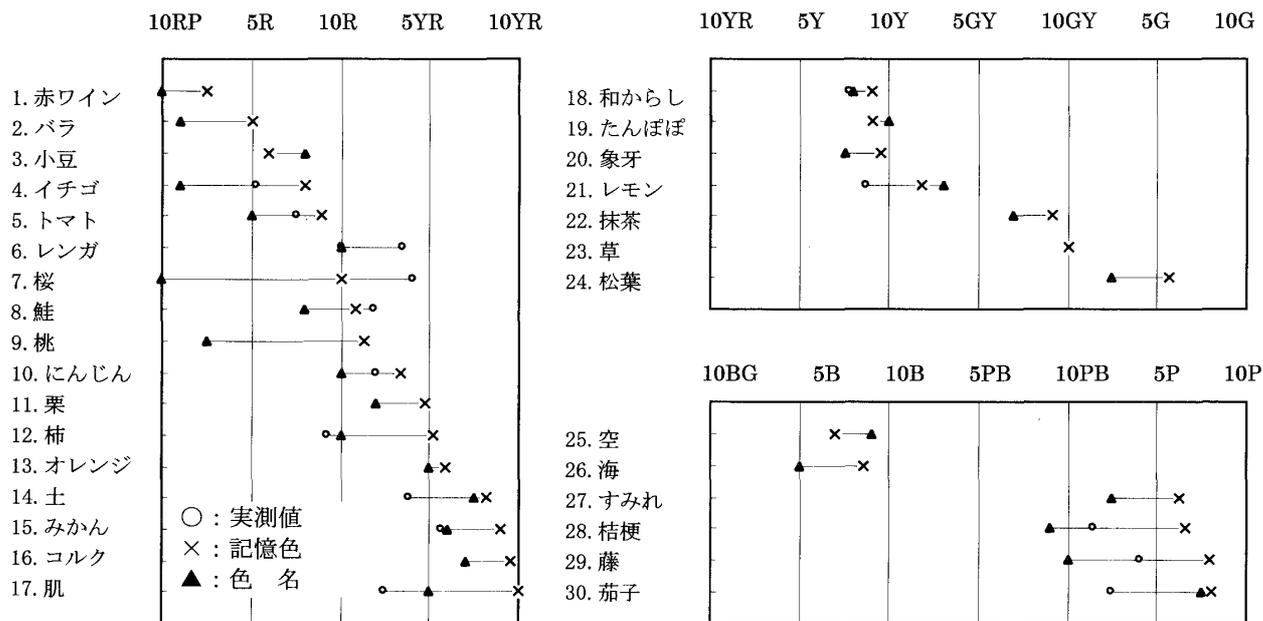


図2 色相のズレ（記憶色，実測値と色名代表値）

なお，三属性における変移の方向は，対象物によって様々であり，色属性値との一貫した傾向は認めがたい（図1，図2）。

3-2. 色名と実測値との関係

実測値は，JISの参考値と次のような関係がみられる。明度と彩度については，17点中，みかんでは両者が一致し，残りのうち12点は色名よりも高明度，13点は色名よりも高彩度となっている。色名の方が高明度かつ高彩度となっているものが10点ある。よって，色名代表値は，実測値より強調の原理によるものが多いといえるだろう。

3-3. 記憶色と実測値との関係

実測値が記憶色の $\pm 1\sigma$ の範囲内に含まれているか否かを指標としてみると，17対象物の特徴は次のように要約できる。草，桜，藤の3点は，三属性とも $\pm 1\sigma$ のなかに収まり，記憶色の実測値との乖離は小さい。また，実測値よりも記憶色の方が高明度なものが17点中の15点，高彩度となっているものが12点あった。明度がわずかに低下したのは草と土のみであり，彩度が少し低下したのはレンガ，みかん，桔梗，藤である。これらの傾向から，記憶における明度彩度の強調の原理をほ

ぼ確認することができる。

3-4. 記憶色，実測値と色名の関係

この3種のデータが揃っている17点のうち，実測値，色名とも三属性が記憶色の $\pm 1\sigma$ に入っているものは草の1点のみである。残るうちの7点が記憶色回答の $\pm 1\sigma$ に色名が含まれ，実測値と乖離している。このタイプの色名は，JISに限る限り，由来する対象物の実際の色から離れて記憶色に影響された色が表示されていることになるだろう。

4. まとめ

予備的実験により，以下の点が明らかになった。

- i) 草のように三者間の乖離が小さいものもあれば，大きなズレが確認された対象物もあった。
- ii) 三者間のズレをみると，大きくみれば，記憶色は，実測値よりも高明度，高彩度となったものが多く，色名についても実測値よりも高明度，高彩度化したものが主流であった。
- iii) 色名と記憶色が近くに位置し，実測値はそれらから離れて位置する事例が多いようである。その場合は実測値よりも，高彩度，高明度化する傾向がみられた。